

令和5年度の保存修理内容

(1) 金属製品

○樹脂塗布

外気との接触を少なくし防錆効果を上げるため、フッ素系アクリル樹脂10%ナフサ溶液を鉄製品に2回、青銅製品に3回、乾燥作業を挟んで塗布しました。

○復元・整形

鉄製品で接合の必要な箇所は、エポキシ樹脂やシアノアクリレート系接着剤で接合し、すき間や欠損部は、樹脂とガラスマイクロバルーンを混ぜたもので復元しました。復元部は周囲と違和感のない程度に小型グラインダーで整形しました。

青銅製品で接合の必要な箇所は、アクリル樹脂6%、40%酢酸エチル溶液で接合しました。



樹脂塗布作業

○樹脂塗布・仕上げ

鉄製品とサンプルの採取痕を樹脂で補填した青銅製品には、表面に樹脂を1回塗布しました。さらに、樹脂によって生じたテカりは、ツヤ消し剤を用いて抑えました。

今回復元した箇所や以前に補填した箇所については、周囲と違和感のない程度にアクリル絵の具で補彩しました。



鉄斧の修理状況（左：修理前、中央：復元後、右：補彩後）

(2) 土器

○接合・組立及び復元充填

土器は、アクリル樹脂40%アセトン溶液を接着剤として破片を接合しました。欠損部にはエポキシ樹脂を補填しながら組み立てや復元を行いました。

○補彩

アクリル樹脂絵の具で補彩し、資料本体と復元部が違和感なく判別できる程度に仕上げました。



土器の接合・復元・補彩作業

(3) 保存台の作製

金属製品81点とガラス小玉4点を、安全かつ安定した状態で保管するため保存台を作製しました。

まず、設計図を作り検討・協議を踏まえたうえで、刀剣類、銅鏡及びヤリガンナは錫箔やシリコンで養生したうえで型取りを行いました。その型をもとに、刀剣類と銅鏡には、付加型シリコン製シートとベークライト樹脂製ベースを組み合わせた台座、ヤリガンナとその他の資料には、各々の寸法に合わせて方形の収納スペースを設けた付加型シリコン製台座を作製しました。



錫箔を貼る作業

次年度は、これらの保存台を収納する桐製引き出しと保存箱の作製を予定しています。



完成した保存台